様々な出会いと発見

美術教育講座・原田義明

１．授業の概要及び目的

本授業は，学校教育実践コース（美術教育専修）及び造形芸術コースの２回生を対象とした合同授業であり，後学期に開講されている。本年度の受講生数は１６名（美術教育専修２回生２名，造形芸術コース２回生１１名，３回生２名，４回生１名）である。このうち，継続して受講したものは，１３名である。

本授業では，やきものの２大成形法の１つである「手びねり成形法」の基本的な技法の習得を目的としており，作品制作を通して，用と美，機能と造形について理解し，人間の生活に密接に関係しているやきものについて学習することが目的である。

〈到達目標〉

（１）　やきものを構成する二大要素である土と釉薬の基礎的な事柄について理解し，手びねり成形の技法について説明できる。

（２）　与えられた課題内容を理解し，作品制作に生かすことができる。

（３）　土と釉薬及び手びねり成形の特性を的確に捉え，各自の制作意図に従って，作品化できる。

２．授業内容

この授業では，多くの学生が陶芸初心者であることを考慮し，土づくり（荒練り・菊練り）から開始し，課題設定→デザインスケッチ→粘土成形→乾燥→素焼き→施釉→本焼きの一連の作業工程を各受講生の制作進度に個別に対応しながら進めていった。また，授業全体を通して「器」を共通テーマにして２課題を設定し，工芸における用と美，機能と造形を学生自らが体感することを目的に，課題Ⅰでは，花器を制作し，花器完成後，自作の花器による「いけばな実習」を実施した。課題Ⅱでは，カップとソーサーを制作し，課題Ⅰと同様に作品完成後，自作作品を使った「茶話会」を行った。

３．様々な出会いと発見

工芸することの意味は，手により生み出されたものの中にそれ特有の美しさを発見し，使うことにより，生活やものに喜びを見出すことにある。この授業では、様々な出会い（素材・技法・表現）を中心に，学生が出会いや発見の中から，自律的に思考し，制作に取り組むための方策（色土による表現，化粧掛け及び色化粧の技法，施釉の様々な技法等）を従来以上に工夫し，実行した。また，授業アンケート項目にも，これに関連した質問を新たに設定し，このことについて問うた。

４．授業改善のためのアンケート

今回もデュプロマ・ポリシー（以下ＤＰ）に関する項目を設定し，授業最終日にアンケート調査を実施した。ＤＰに関しては，４段階で評価を行い，①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上した　とした。

ＤＰ以外の質問に関しては，問１４までは５段階評価で行い，①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお，問１１の回答は①はい⑤いいえで答えることとし，問１５～１７は記述式とした。回答者１１名

５．アンケートの結果

【教育学部ＤＰに関する質問項目】

ＤＰ１～５まで調査を行ったが，この授業ではシラバス等で重点項目をＤＰ１に設定しているため，今回はＤＰ１のみ抽出する。

ＤＰ１．教科・教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門知識を修得している。（知識・理解）

①　１名　③　２名　④　８名

【授業の内容に関する質問項目】

１．授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

⑤　１１名

２．この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

④　４名　⑤　７名

３．この授業で，あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。
④　１名　⑤　１０名
４．この授業により，自分の考え方が培われたり，得るところがありましたか。
④　１名　⑤　１０名
【授業方法に関する質問】
５．担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。
⑤　１１名
６．担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。
⑤　１１名
７．制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。
④　１名　⑤　１０名
８．この授業では，教材や資料が工夫されていましたか。
④　１名　⑤　９名　無回答１名
９．授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ，教員はそれに適切に対応していましたか。
⑤　１０名　無回答１名
【受講生自身に関する質問】
１０．あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
④　２名　⑤　９名
１１．この授業の受講に際し，シラバスを読みましたか。
①　１名　⑤　１０名
【授業全体に関する質問】
１２．この授業のテーマ・目的は達成されましたか。
④　４名　⑤　７名
１３．この授業の課題を通して，制作者としての「つくる視点」だけでなく，使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。
⑤　１１名
１４．この授業は，満足のいくものでしたか。
④　１名　⑤１０名
※以下，問１５～１７の設問は，誤字・脱字等を除き受講生の記述をそのまま転記する。
１５．この授業を通じて，様々な出会い（素材・技法・表現）や発見があったと思いますが，印象に残った出会いや発見を記述して下さい。
〇土の特性（乾燥，いじり？）などを考えながら作業できました。釉薬についても，ムラがあっておもしろかったです。
〇制作して初めてカップの厚さや重さを考えなければいけないことに気づけた。手びねりをすることで微妙な歪みが生じておもしろかった。
〇普段手にするものが，機能的なことをよく考えられて作られていること。
〇土にふれる事が少なくなっていましたが，自分の思ったようにある程度形をつくることができておもしろかったです。
〇同テーマの色々な人の作品が見れたので，同じ物を目的としていても人によって，着眼点が違うことがおもしろかった。
〇自分で自由に形をつくって，それが具体的に使えるものになるというのは良いと思いました。彫刻だと保存（樹脂）までに思った形から変化してしまうことが多いので。自分のイメージそのままがつくれるのはたのしかったです。
〇自分の予想から外れた仕上がりが，元考えていた物より良かったこと。
〇普段気にすることのなかった使い勝手の良さはどう成り立っているのか？を考えるくせがついたように思います。また，土という素材の特性を知り，こういった焼き物がどう作られているのか分かるようになり，焼き物を見る目が変わりました。
〇完成した時の感動，喜び。
〇土や釉薬の具合がむつかしかったけれど色々な表現が生まれておもしろかったです。
１６．この授業で良くなかった点，改善すべき点を記述して下さい。
〇同じテーマ（花器，カップとソーサー）でも個性によって様々な作品が出来上がるため，合評が勉強になった。実際に使用感が確かめられる点も良い。
〇冬場だから暖房がかかっていて暖かかったけれど乾燥の状態が早くて作業が大変だったので，風の量を少にする方がうれしです。
〇特になし
１７．実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。
〇人数もちょうどよく作業スペースが充分にとれてよかったと思います。
〇調度良い人数だったと思います。
〇適切だと感じた。
６．まとめ
　工芸の制作においては，様々な出会い（素材・技法・表現）や発見、気づき等をどのように手のうちに入れ，作品化するかが重要である。今回のアンケート結果から，多くの学生が土や釉薬等の素材，それを加工する技法との出会いの中で造形的な表現力を深めたことが伺える。また，実際に使う中での発見も述べられており，授業の目的は充分に達成できたと考える。今後も工芸することの意味を問いかけるような授業に努めたい。